



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



試合の様子

強振！

チームメイトとタッチ



勝つクラブチームを作り、 地域に恩返しをしたい！

地域に密着し、野球を通して、子どもたちや地域に元気を与える男性を紹介します。

妻鳥哲也さん(22歳)城崎町湯島

2013年度の県社会人野球ベストナインに、NOMOベースボールクラブのキャプテン 妻鳥哲也さんが選出されました。妻鳥さんは「選ばれるとは思っていなかったの

妻鳥さんは、毎日午前6時30分に起床し、午前7時30分には球場に向かうバスに乗り込みます。午前8時30分から午後1時30分まで練習を行います、午後2時30分に旅館に戻り、昼食をとります。その後、ウエイトトレーニングをして、午後4時から旅館で働きます。夕食は午後9時ごろ。就寝前に、室内練習場でバットを振ることも多々あります。

野球を好きになってもらいたい。教室では、目をきらきらさせて、楽しく野球をしている子が多く、うれしくなります」と笑顔で話します。

野球を始めたきっかけ

出身は大府交野市。妻鳥さんが野球を始めたのは、小学1年生。「3歳上の兄が野球をしていた」ことが影響しています。両親はバレーボールをしていて、スポーツ一家に育ちました。小さいころから元気がよく、体も大きかったそうです。

休日(平日の1日または2日)は、チームメイトと食事や買い物に出掛けたりして気分転換を図っています。

「クラブの方々と交流を深めています。」「地域の方々の応援は力になります。僕たちクラブが試合で勝つことが一番の恩返しになります。そして、豊岡の知名度を上げることにもなります」と話していました。

NOMOベースボールクラブに入ったのは、19歳のとき。中学時代のコーチに紹介され、クラブの練習に参加したときに、清水監督の目に留まったことがきっかけでした。

子どもたち、地域、旅館への思い

クラブの代表理事の野茂英雄さんに対しては、「雲の上の存在です。直接指導を受けられるのはとても幸せなこと。当時は名前を呼ばれるだけでうれしかった」と妻鳥さんは話します。

旅館では、調理場の方が作った料理を仲居さんに届ける中番という仕事を担っている妻鳥さん。1年が経ち、ようやく慣れてきたところ。「旅館には、働かせてもらって『ありがたい』という気持ちでいっぱいです」と感謝を述べます。

「クラブの目標は、都市対抗野球の予選を勝ち抜き、本選に出ること。常に勝てるクラブにしたいです。個人としては、クラブに入って今年で3年目で、勝負の年だと思っています。昨年はベストナインに選ばれました。今年も、クラブが良い成績を取れた上で、再度ベストナインを受賞できれば」と抱負を語っていました。

1日のスケジュール

クラブは、地域に貢献するため、市内で定期的に野球教室を開催しています。妻鳥さんも子どもたちを指導します。「子どもたちには、まず

近い将来目指すこと

ま ち の 話 題

新庁舎竣工記念イベント「冬のあそび場」

外は雨、けれど、中はポカポカ

1月26日、「冬のあそび場」(主催・海山計画)が豊岡稽古堂3階で開催されました。

カフェや雑貨などの13店舗が出店し、フリーマーケットブースには手作り品も並びました。また、絵本の読み聞かせやおやこクッキング、刺しゅう、英語あそびなど、親子参加のさまざまなワークショップが開かれました。来場者は、いろいろなコーナーを回り、軽食をとったり、くつろぐなど、思い思いに楽しんでいました。

発起人の一人、花房理恵さんは「思った以上に多くの方が来られて良かったです」と、笑顔で話していました。



▲掛け声に合わせて一斉に巻きます

「ジャンボまき寿司大会」

長い巻きずしで、長いお付き合ひ

1月26日、中竹野ふるさと館(竹野町轟)で、恒例の「ジャンボまき寿司大会」が開催されました。

8回目の今回は、約1000人が参加。一つの巻きずしとして、しっかりとつながるように、海苔の継ぎ目からご飯を置いたり、すしがはじけないように、具を手前3センチから置くなど、過去の経験を生かし、みんなまで息を合わせて慎重に巻きました。

完成した巻きずしの長さは、なんと32.28メートル!!計測後、参加者は切り分けた巻きずしと、温かい豚汁をほおばり、連帯感と達成感に包まれていました。



▲落書きコーナーは、子どもたちに大人気

笑 顔 の 輪

仕事・子育てしても楽器が吹きたい

チェリー ブラッサム(豊岡)

チェリー ブラッサムは、「春の桜のようにほのぼのと音楽が楽しめますように」との願いを込め結成されたブラッサムアンサンブル(少人数による吹奏楽)です。

豊岡実業高等学校(当時)の卒業生が中心になり、15年前に誕生しました。その後、メンバーが入れ替わり、現在は7人の女性で活動しています。毎週水曜日の午後8時から10時まで、主に、新田地区公民館で練習しています。練習の成果を、カバストマルシェ(カバンストリート)やサロン



▲演奏を楽しむメンバー

コンサート(豊岡市民プラザ)、各地域の子育てセンターなどで披露しています。

代表の高木愛郁(あい)さんは「生の楽器の音色を届けて、皆さんに喜んでもらいたいです。特に、子どもの反応はダイレクトに返ってきます」と笑顔で話します。以前、ある小学校に招かれた際には「演奏後に小学生から歌のプレゼントや手紙をもらいました。本当に感動しました」と振り返ります。

子どもに聴いてもらうことが多いので、アンパンマンやトトロメドレーなどのアニメソングをよく演奏します。メンバーは、仕事や子育てなどで忙しい毎日をごくりしています。それでも「楽器を吹きたい」との熱い思いが活動を支えており、それを実現できるのは、家族の協力があってこそと感謝しています。出演依頼・入団希望はチェリー ブラッサムのホームページ(フェイスブック)まで。